

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成26年 1月21日更新

事務事業名		子ども読書まつり実施事業						☐ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり						所属部	教育委員会	課長名	上原 哲也
	施策	21	生涯学習の推進						所属課	生涯学習課	担当者名	緒方 初美
	基本事業	67	学習への参加機会の提供						所属班	図書館班	(内線)	1540
予算科目		会計一般	款10	項5	目8	事業連番10807	法令根拠	図書館法第3条(図書館奉仕)、合志市立図書館条例第5条	成果優先度評価結果：⑧ コスト削減優先度評価結果：⑥			
終了、開始年度		☐ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始						事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	ヴィーブル2階全域を使用して子どもたちにいろいろな体験を通して読書活動についての関心と理解を深めてもらおうと、各種催しを行う。(おはなし会、主人公体験、科学遊び、かばくんの食育など)平成9年5月子どもの読書活動の推進及び図書館利用の促進を図る目的により開始された。
【業務の流れ】	今年度の催し物実施内容を検討決定、チラシ等の作成及び合志市立各小学校、保育園等へ配布する。図書館利用者・市役所職員等へ協力者(ボランティア)を募集して、材料の購入及び各種催し物の下準備、会場設営、当日各催し担当者職務遂行、後片付け・報告書作成
【主な予算費目】	需用費(消耗品費・印刷製本費・食料費)
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	図書館職員が主になり、学生と一般のボランティアが協力して実施している。人員配置の都合で一日だけの開催であることは、準備に要する手数を考えると勿体ない。開催時期についても、他の行事との兼ね合いや、児童生徒の繁忙期に当たるので考慮を要する。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動)24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO) 「ヴィーブル」2階全域を使用して①おはなし会②主人公体験③科学遊び④作って遊ぼう!おはなしの小道具⑤食育(詩で楽しむ『かばくんの食育』)実施⑥子ども用送迎バスを運行した。延べ2,188人の参加があった。		25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 「ヴィーブル」2階全域を使用して①おはなし会(ボランティアさんによる)②主人公体験③科学遊び④絵本の展示&ブックトーク⑤食育(詩で楽しむ『かばくんの食育』)⑤送迎バス運行(合志市のバス使用)
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア:開催回数	回	参加人員の数が、これまでではひとつのコーナー毎に延べ数で行なっていたが、本年度よりコーナー毎の参加実数を計上したので、数字としては減少しているが、実際は増加している。
→ イ:行事参加者数(延べ人数)	人	
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
→ 市民		→ ア:開催日の図書館利用者
		→ イ:合志市内の乳幼児から小・中学校の児童生徒数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
→ 積極的に読書活動を推進する。		→ ア:合志市内の乳幼児・小・中学校の児童生徒数に対する参加者の割合
		→ イ:
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度 0

(2)各指標・総事業費の推移											
			単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込
① 活動指標	ア	回		1	1	1	1	1	1	1	1
	イ	人		2,341	2,188	1,900	1,822	1,900	1,900	1,900	1,900
② 対象指標	ア	人		226	153	220	152	220	220	220	220
	イ	人		9,121	7,134	9,100	7,524	9,100	9,100	9,100	9,100
③ 成果指標	ア	%		26	2,188	21	1,822	21	21	21	21
	イ										
投資 事業 入費 量 人件 費	財源 内訳	国庫支出金	千円	53	35	33				36	82
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	38	45	49	81	82	82	46	
	(A) 事業費計	千円	91	80	82	81	82	82	82	82	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	正規職員従事人数	人	3	5	2	5	2	0	0	0	
		延べ業務時間	時間	64	343	50	439	50	0	0	0
		(B)人件費計	千円	263	1,385	201	1,787	201	0	0	0
トータルコスト(A)+(B)			千円	354	1,465	283	1,868	283	82	82	82

事務事業名	子ども読書まつり実施事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は24年度的事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 「子ども読書の日」関連行事として、市民に定着している。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 予算の有効活用の観点から、対象者がより参加しやすい状況設定をし、参加者数増加を図る。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 事業の規模を拡大しすぎたので、事業の内容を検討する。他の類似事業との連携の可能性はある。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 事務事業の開始時点において、住民ボランティアの協力を得て、必要最低限度の予算で運営してきた。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 合志図書館においては、他市町村の正職員数の割合は、県内でも下位で85%が非常勤職員で運営して来ている。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 図書館法により無料の原則に則って運営している。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】 準備から当日の運営まで、住民ボランティアの協力を得て運営している。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

図書館をあまり利用しない子ども達に図書館の魅力を知ってもらう良い機会になっている。また、運営についても図書館職員を中心に多くのボランティアの協力で安価に抑えることができている。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可					(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																								
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善） ☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善） ☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）																													
				<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>							コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																											
		削減	維持	増加																									
成果	向上																												
	維持																												
	低下																												

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策